

平成 23 年度図書館情報メディア研究科プロジェクト研究 研究成果報告書

種 目	国際交流		代表者氏名	緑川信之
取組み課題名	日本, 韓国, 中国における図書館情報学研究・教育に関する情報交換及び共同コンファレンスの開催			
組織				
氏 名	所属研究機関・部局・職	現在の専門	役割分担	
緑川信之	筑波大学・図書館情報メディア研究科・教授	図書館情報学	全体計画, 他機関との連絡, コンファレンスの司会	
宇陀則彦	筑波大学・図書館情報メディア研究科・准教授	デジタルライブラリー	コンファレンスでの発表・討議	
永崎研宣	人文情報学研究科・主席研究員 / 所長	デジタルアーカイブ	コンファレンスでの発表・討議	
取組み目的				
<p>本課題は, 韓国釜山大学校文献情報学科 (以下, 釜山大学) との交流協定に基づいている。本研究科は平成 21 年度から 5 年間の交流協定を釜山大学と締結したが, 釜山大学は中国人民大学情報資源管理学部 (以下, 人民大学) とも交流協定を締結しており, 本研究科を含めた 3 機関で, 各国の図書館情報学研究・教育に関する情報交換及び共同コンファレンスを平成 20 年度から行っている。今年度は人民大学においてコンファレンスを開催した。</p>				
成果				
<p>今年度は 2011 CJK Library and Information Science Forum "Digitalization of Information Resources: Current Situations and Future Directions" というテーマでコンファレンスを開催した。宇陀准教授が "Trends of the Institutional Repositories in Japan" というタイトルで, また, 永崎氏が "Current Situations of Digital Humanities in Japan" というタイトルで報告を行った。釜山大学, 人民大学からも, それぞれの国のデジタルアーカイブズの現状について報告があり, 3 国の図書館情報学におけるデジタル情報資源に関する研究の状況について理解を深めた。特に今年度は, 従来の 3 機関だけでなく, 各国で別の機関の研究者も招聘して報告してもらい, 連携を広げることができた。来年度は釜山大学で開催される予定である。さらに, 本研究科と人民大学とはまだ協力協定を結んでいないが, これまでのコンファレンスを通じて協定を結ぶ気運が高まり, 現在, 両国で検討中である。</p>				